

日本の大学生のパーソナリティとスポーツ活動に対する価値観

スポーツマネジメントゼミナール 1314044 西山 拓巳

1. 研究動機・研究目的

本研究は日本の大学生のスポーツ活動に関する価値観がどのようになっているかをパーソナリティの観点から明らかにすることを目的に行った。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、スポーツへの関心が高まっている。その一方でスポーツへの参加率が年々下がってきているというデータも報告されている。スポーツへの関心や注目度が今後さらに高まっていく中で、スポーツへの参加率を上げていくためには適切なアプローチ方法を明らかにする必要があると考える。そのためには人々がスポーツに対して何を求めているのか、何のためにスポーツを行うのかを理解し、それらを元に若者へアプローチをすることでスポーツへの態度を変えられると考える。

本研究では大学生を対象とし、それぞれのスポーツへの関与の仕方や、モチベーションを明らかにし、共通の価値観を持つ人々のパーソナリティ特性をグループに分類することで明らかとし、各グループに対する適切なアプローチ方法の基礎となる資料を提供することができると考え、本研究に着手した。

2. 研究方法

1) 調査対象者

本研究の調査対象者はJ大学の327名であった。

2) 調査項目

本研究の調査項目は、Sports EnglandのUnder The Skinで用いた質問項目を参照し、日本版に修正して個人的属性、パーソナリティ関係尺度、スポーツ活動に関する価値尺度を質問項目として設定した。

3) 質問紙の回収方法

本研究の質問紙の回収は、グーグルフォームで作成したWebアンケートをスマートフォンで回答し、そのデータを回収した。

4) 分析

本研究の分析方法はSPSS version 23を用いて、記述統計、クラスター分析、差の検定(MANOVA)を行った。

3. 主な結果と考察

本研究において調査対象が日本のスポーツ系大学の学生であり、対象者全員が普段からスポーツに慣れ親しんでいるためデータに偏りがあることが予想されていた。しかし、結果としては4つのクラスターに分けられた。このことにより、体育系の大学生においても全く同じようなパーソナリティを持つ集団ではなく、それぞれ異なったスポーツに対する価値観を持っていることが分かった。これにより体育系の大学生であってもスポーツを推奨、継

続させるためのアプローチもそれぞれのパーソナリティや特性に適した方法があり、それに即して行う事でより影響を与えるのではないかと考える。

各クラスターの特徴を比較すると、関与スコア、スポーツ頻度、重要視しているモチベーション、重要視していないモチベーションの観点からクラスターの特徴を考察し命名することとした。クラスター1は4つのクラスターの中でも比較的スポーツへの参加も積極的であり、ポジティブな姿勢を持っていたという特徴があったため「積極的スポーツ愛好家」という名称にした。クラスター2は比較的スポーツへの姿勢はネガティブであり、スポーツ頻度も低く、重要視しているモチベーションの数値が低いなどの特徴を持っていたため「内向的スポーツ参加型」、クラスター3はどの項目においてもクラスター1と非常に近い数値を示していたが、「家族への影響」という因子において他の3つのクラスターと大きな差があり、家族の影響が非常に大きいグループだということが予測できるため「家族重視型」、クラスター4においては、4つのクラスターの中でも運動頻度やスポーツへの態度も明らかに高いという特徴を持っていたため「全カスポーツ参加型」という名称にした。

4. 結論

本研究の対象者が体育系の学生であるため、スポーツに対する価値観や態度などある程度の偏りがあることが予測された。しかし、結果として4つのクラスターに分類することもでき、それぞれの項目においても差が見られた。そのため、各グループに対してそれぞれの適したアプローチ方法も予測できた。

またどのクラスターにおいても共通して見られたのが、重要視しているモチベーションにおいて「楽しいこと」、「目標達成」、「人として成長」という項目が上位に来ており、また重要視していないモチベーションとして「見た目」、「自主的であること」がどのクラスターにおいても上位に来ていたのでクラスターに関係なく、対象とした学生全体の特徴として考えられる。

今回得られた結果は母集団に偏りがあるため、一般の大学や、社会人を対象に行うと同じようなクラスターモデルに分類はできないと考えられるが、今回分類されたクラスターモデルとは異なったクラスターモデルに分類することができるであろうと考えられる。

5. 卒業論文の執筆を終えて

無事に卒業論文を終えることができ、安心している。今回行った研究によって、体育系の大学生がどのようなモチベーションを持って、スポーツに取り組んでいるかを知ることができた。得られた結果は私にとって興味深く、面白い内容であったため、書き終えたときは大変達成感を感じた。この研究を指導して下さった小笠原先生をはじめ、協力して下さった方々に感謝している。卒業論文を通じて学んだことを今後活かしていけるようにしてこうと考える。